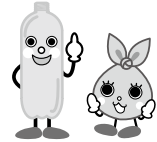


飛騨市のエコだより

第71回 「特定外来生物の防除にご協力を」



さわやかな青空の下での散歩は最高ですね。
しかし、こうした自然に恵まれた飛騨市にもこのまま放置しておくと、貴重な自然を壊してしまうおそろしい植物が生えているのをご存じですか。

〈特定外来生物〉

あなたの周りにきつとあるはず。オオキンケイギク・オオハングソウ。

実は「特定外来生物」です！

アライグマ、ヌートリア、カミツキガメ、オオクチバス、セアカゴケグモ、どれもテレビなどで被害の実態や影響など報道されています。ご存じですか。

こうした動物の方が注目されがちですが、植物であるオオキンケイギク・オオハングソウは、強靱(きょうじゆん)な繁殖力で全国各地に蔓延(まんえん)し、飛騨市内でもよく見かけます。

これらの植物は生態系に悪い影響を与え、農地に侵入すると農作物に被害を与えます。

こうしたことから環境省は外来生物法を制定し、広く防除の協力を呼び掛けているのです。

〈オオキンケイギク〉

5月から8月にかけて、あらゆる場所に群生となつて鮮やかな黄色の花を咲かせます。

背丈は50センチから1メートル。葉は薄い緑色で粗い毛があります。

〈オオハングソウ〉

7月から10月にかけて、主に湿り気を含んだ山間部を中心に群生し、背丈が50センチからなんと3メートルに達するものまであります。こちらも鮮やかな黄色の花を咲かせ「花びらが垂れ下がる」のが特徴です。



〈防除方法〉

人力で抜いて ↓ 干して枯らして ↓ 燃えるごみ ※根を引き抜かないと 繰り返し生えてきます

〈飛騨市の取組み〉

平成24年から市民の皆さんへ防除の協力を呼び掛け、岐阜県森林環境税を活用して引き続き、防除に取り組みます。

〈間もなくチラシがお手元へ〉

チラシを全戸に配布します。ご家庭(ご近所、職場)で是非、話題にしてみてください。あなたの周りにきつとあります。是非、防除のご協力を。なお、ボランティアによる防除を募集しています。詳しくはチラシ、または下記までお問い合わせください。

問 環境課 ☎ 0577-73-7482

みんなで活かして 楽しい毎日!

飛騨の薬草を学ぶ 教養講座

採取した薬草の 乾燥の仕方

手で軽くもんでガサガサと崩れるくらいが一応の目安です。

●陰干し

花、つぼみ、葉類は陰干しにするが、日光に一日当ててから陰干しにします。もんで強い香りを発する葉類(ドクダミやハッカなどは必ず陰干しにしてください)。陰干しにする薬草の採取時期は夏場が多く、雨の湿気などの影響で腐敗したりカビたりしがちなので、天候には十分注意して乾燥させます。

●湯通し・蒸す

デンプン質を多く含む根茎類は熱湯に漬けたら蒸してから乾燥させると乾燥時間が短くなります。目安は40〜50度の湯に5分程度漬けてから乾燥させます。これについても乾燥期間中の夕立など湿気には気をつけましょう。

こうして乾燥した薬草は、煮出してお茶に、微粉末にして料理に入れるなどさまざまに使い方ができます。積極的に活用してみてください。

フキノトウやタンポポ、ノビル、スギナ(ツクシ)などは採取できましたか。

フキノトウは伸びてもキンピラに、タンポポの葉は天ぷらに、ノビルは薬味に、ツクシはおひたしにと、春の味覚として楽しみながら体に取り入れることができます。

いよいよ薬草が取れる時期になりました。野山に出かけてみましょう。

(村上光太郎著「薬草療法ハンドブック」より)

●天日干し

天日干し、陰干し、いずれも薬草についている泥をよく落とし、水気を切ってから束にして乾燥させます。一般的に茎、枝、根、根皮、果実、種子などは天日乾燥に向いていますが、香りの強い葉類は向きません。もんでも強い香りがないものは天日乾燥させます。乾燥の間は季節や天候気温などにより異なります。干しあがったかどうかは茎葉や花の場合

問 企画課 ☎ 0577-73-6558